

漢字では「沢胡桃」と書き、沢に生えるクルミの意味。成長が非常に早く、まっすぐにすらりと伸びるのが特徴です。高さ 10 ～ 20m の高木になります。

花は 5 月ごろ。雌雄同株。長さ 10 ～ 20 cm ほどの房状で垂れ下がります。

葉は 5 ～ 10 対の長さ 5 ～ 12 cm ほどの小さな葉が集まって羽根状になり、全体では 20 ～ 30 cm ほどの長さになります。秋になると黄葉して落葉し、葉が落ちた痕が大きく残り、目立ちます。ハート形の丸みのある輪郭で、ユーモラスな顔のように見えて、ほっこりします。

一般的なイメージの食用になるクルミの実ではなく、長く垂れさがる房に 10 ～ 30 個の果実をつけます。1 つの果実は直径 8 mm ほどの小さなもので、食用にはなりません。果実には翼があり、風に乗って飛んで行きます。また水に浮きやすい性質をもっており、沢の流れに乗って遠くまで移動します。

冬芽は、でき始めた夏から秋ごろは芽鱗(がりん)に包まれています。本格的な冬が来る前には落ちて、裸芽になって冬を越します。守る役目の芽鱗がなくなってしまって大丈夫かと心配してしまいましたが、中から出てきた裸芽は長さ 1 ～ 2.5 cm ほどの長楕円形で、茶褐色の柔らかい毛に包まれていて、冬の寒さに耐えられる強い子に育っています。春になると、裸芽が目覚まして背伸びをするように伸び始めます。ぐんぐんと手足を伸ばし芽吹いていく様子は生命の力強さを感じます。サワグルミの冬芽観察は秋から春の楽しみのひとつです。

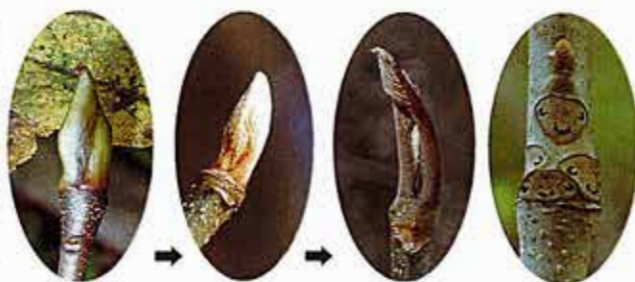
材は白色で軽いのが特徴ですが、変色、腐朽が入りやすく、割れやすい欠点があり、マッチの軸木、経木、杓子などに利用されていました。また、樹皮が強靱なことから雨合羽として用いたり、山小屋の屋根を葺くのに使用されました。

このあたりにはよく自生しており、県民の森では散策路 A コースや七滝登山道などでよく見られます。



樹皮 3/17

新緑 5/28



若い冬芽

10/13

冬の冬芽

2/28

伸びてきた冬芽

4/2

葉痕

5/13



芽吹き 4/22



開花の様子 5/9



花 5/25



若い実 6/8



葉 6/12



熟した実 9/25